

亀井 目博^{かめい かつひろ}さん（広島県廿日市市出身）
2014年度3次隊 シニア海外ボランティア
派遣国：ブータン 職種：衛生工学
2016年4月24日（日）中国新聞 SELECT 掲載



※中国新聞社の許諾を得ています

家庭内の空気汚染調査

町を離れ、田舎を歩いていると、知らない人から声を掛けられる。「クズランポー・ラ（こんにちは）」「ジャ、ジャ（お茶、お茶）」。私の子供の頃は日本でもこうだったなど、思い出す。通り掛かりの知らない人に「お茶を飲んで行け」。さらには「食事はすんだか？食べて」と誘う、おもてなしの文化？だ。



各家庭を訪れ、ブータン人の同僚と空気の汚染度やこんろの状況を調査する亀井さん®

今、私は日本から遠

く離れ、人口が世界1位の中国と2位インドに挟まれた、約70万人が暮らす小国ブータン王国にいる。言葉と服装は違うけれど、顔は日本人そっくり。タイムスリップしたのかと錯覚しそうになる。

首都ティンブー市にあるブータン保健省に勤務し、この国に少しでも役立ちたいと日々活動している。私の仕事は「呼吸器疾患患者低減のための室内空気汚染の実態把握と改善」。平たく言えば「家の中でまきを燃やすために、煙で呼吸器疾患の患者が多いのでそれを減らす」という任務だ。

ブータンに来て1年2カ月が過ぎた。これまで国内のいろいろなところに出かけ、呼吸器疾患患者の現状を把握し、室内空気汚染を測定し、調理用こんろの実態を調査してきた。その結果、改善法にはいろいろな選択肢が見つかった。

あとは私がこの国にいる残りの期間で、いかにして一軒でも多くの家庭で改善してもらおうかである。そういえば、来た当初から「ごみ処理についても指導して欲しい」と何回も言われている。これも何とかしないといけない。